

chapter 02

水道事業の概要

水道事業の概要

1 常滑市の概要

本市は、愛知県知多半島の西海岸に位置し、面積55.90平方キロメートル、東西6キロメートル、南北15キロメートル、海岸線19.8キロメートルの南北に細長く、北は知多市、東は阿久比町、半田市及び武豊町、南は美浜町に隣接しています。交通網としては、南北に国道155号・247号が、東西には北条向山線、半田常滑線及び知多半島横断道路（セントレアライン）が整備されており、市の中心部から名古屋都心までは、名古屋鉄道常滑線により約30分で結ばれています。

本市の産業は、窯業、機械金属工業、醸造業及び農水産業などが盛んで、特に伝統産業である窯業は、平安時代末期頃から「古常滑」と呼ばれる焼き物の産地として知られ、焼き物の町としての観光化も進んでいます。また、農業は、大規模な耕地整備が進められ、野菜、果物などの栽培が盛んであり、伊勢湾に面していることから漁業も盛んで、のり養殖では県内有数の生産高を誇っています。

平成17年に開港した中部国際空港・セントレアは、開港20周年を迎え、中部臨空都市の空港島内には物流事業者、ホテル、国際展示場が、対岸部には大型商業施設等が進出しています。

図2-1-1 常滑市の位置図



2 水道事業の沿革

常滑市水道事業は、昭和32年に創設し、昭和37年には愛知県水道用水供給事業から浄水の供給を受け、計画一日最大給水量7,533m³/日の規模で給水を開始しました。以来、段階的に市内全域に給水区域を広げ、水需要の増加に対して創設以来3回の拡張事業を重ね、平成13年の第4期拡張事業においては、中部国際空港の開港に合わせ、計画給水人口55,700人、計画一日最大給水量36,600m³/日として給水区域を拡張しました。

平成22年には、空港開港に合わせた土地区画整理事業による転入増加により、計画給水人口を60,600人に、開港後の空港における水需要の実績に基づき計画一日最大給水量を31,900m³/日に、水道事業認可変更の届出をしました。

施設整備においては、平成20年から老朽化した久米配水場の更新事業に着手し、平成23年より新配水池による運用を開始後、久米配水区、中央配水区及び熊野配水区による3つの配水区による運用を行っています。

表 2-2-1 水道事業の沿革

名称	認可年月日	目標年度	計画		
			給水人口 (人)	一人一日 最大給水量 (L/人・日)	一日最大 給水量 (m ³ /日)
創 設	S32. 12. 9	S39	30,300	180	7,533
変 更	S34. 12. 24	S39	30,300	180	7,533
変 更	S38. 6. 10	S39	33,000	250	8,250
第1期拡張	S38. 12. 28	S50	37,500	250	9,600
第2期拡張	S40. 12. 23	S50	57,000	420	24,000
変 更	S44. 3. 31	S50	57,000	420	24,000
第3期拡張	S49. 2. 28	S55	64,000	500	32,000
変 更	S59. 3. 29	H07	64,000	500	32,000
第4期拡張	H13. 3. 31	H22	55,700	657	36,600
変 更 届 出	H22. 12. 16	H32	55,700 (60,600)	526	36,600 (31,900)

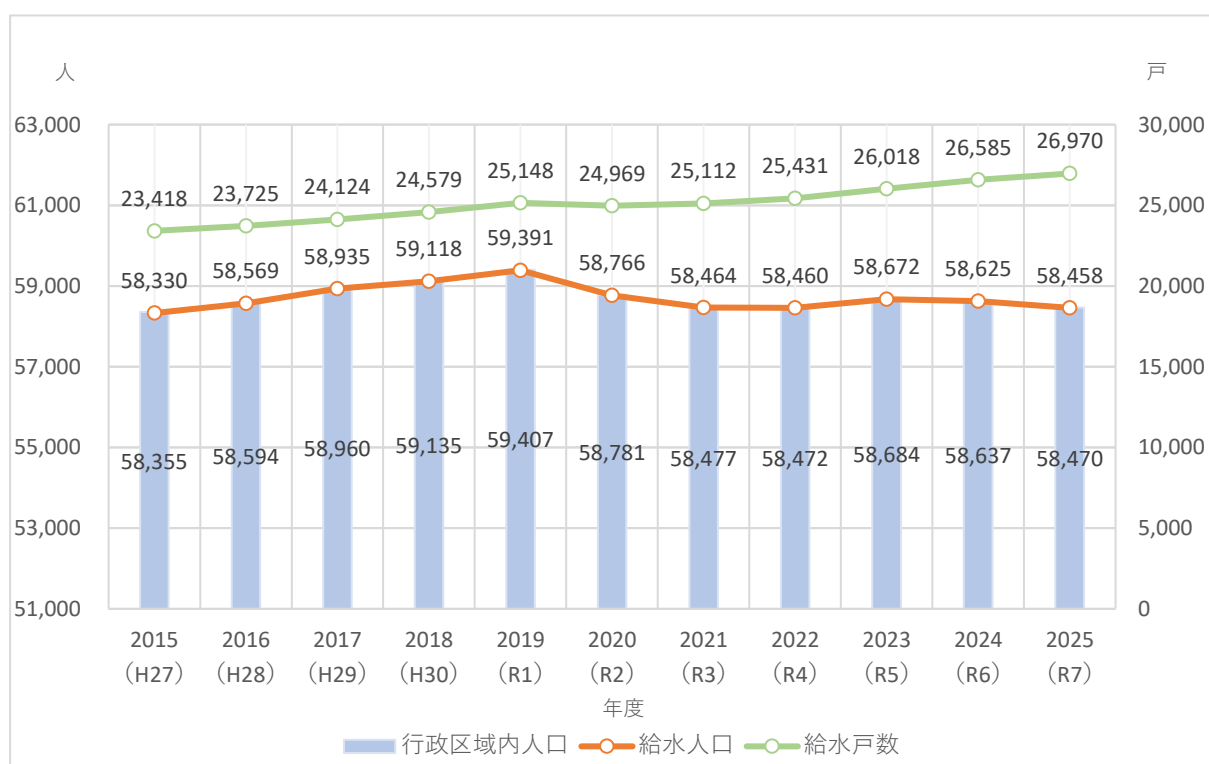
3 水需要の動向

(1) 給水人口の実績

本市では、空港に合わせた土地区画整理事業により、給水人口が増加しましたが、コロナ禍の影響により、令和2年度には59,000人を下回りました。

令和7年度末において、給水人口58,458人、給水戸数26,970戸となっています。

図 2-3-1 給水人口及び給水世帯数の推移



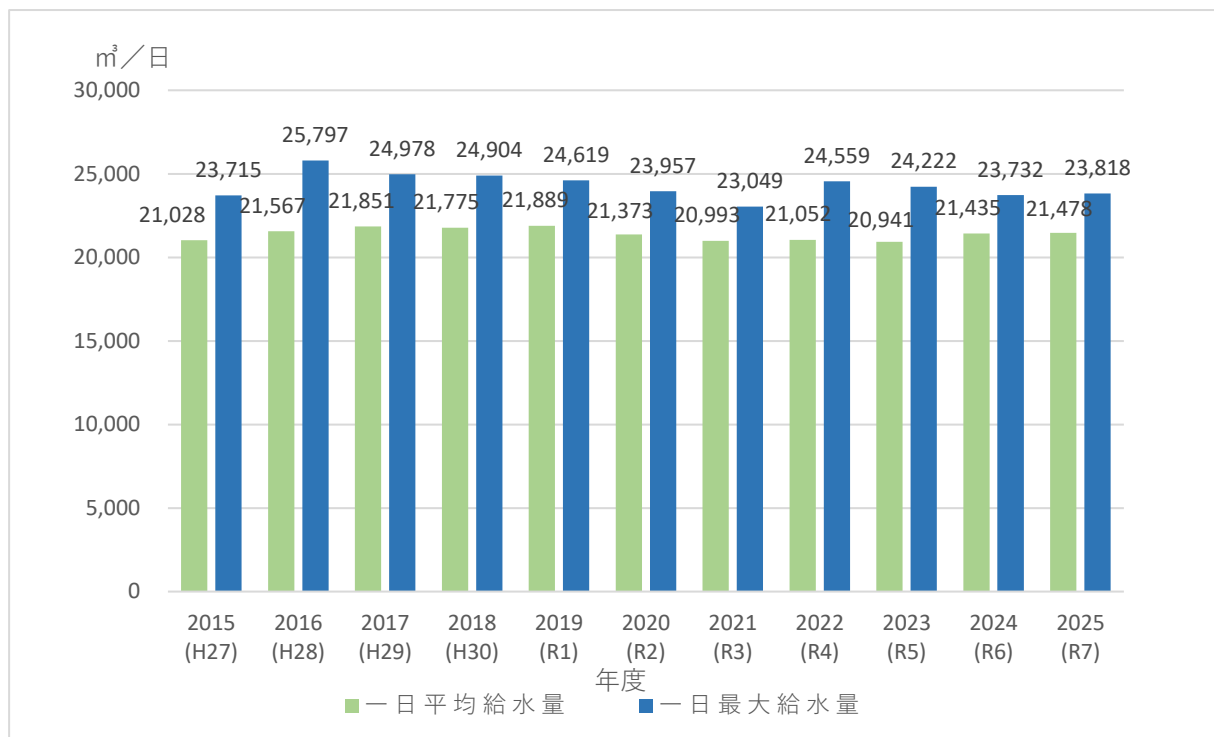
(2) 給水量の実績

1) 給水量の変化

本市の一日平均給水量は、コロナ禍の影響を受けて、令和1年の21,889 m^3 /日より減少し21,000 m^3 /日程度で推移しています。

一日最大給水量は、23,000 m^3 /日程度で推移しています。

図 2-3-2 給水量の推移



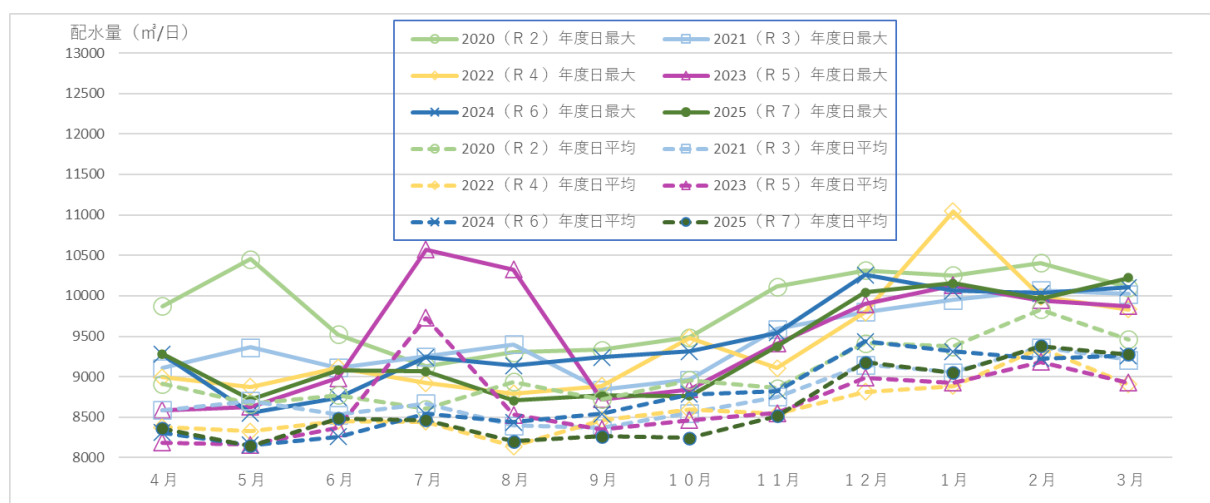
2) 配水区別水需要の状況

①久米配水区

久米配水区は、市内北部に位置し、久米配水場から三和、大野及び鬼崎地区へ自然流下により配水しています。御林配水場から自然流下により久米工業団地へ配水しています。また、配水区の高台には、青海山ポンプ場、多屋ポンプ場により加圧配水をしています。

久米配水区の一日平均配水量は、冬季に9,300m³/日程度を示し、一日最大配水量（年間の最大月）は、10,300m³/日程度を示しています。また、冬季は主により養殖による水需要の増加が見られます。令和4年度1月、令和5年度7月8月の一日最大配水量の増加は、漏水が主要因となっています。

図 2-3-3 久米配水池 配水量月変化（R 2. 4～R 8. 3）



久米配水池 配水量；一日最大配水量（m³/日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020(R2)年度日最大	9,874	10,456	9,525	9,135	9,305	9,334	9,487	10,117	10,313	10,253	10,408	10,106
2021(R3)年度日最大	9,105	9,362	9,112	9,252	9,398	8,838	8,966	9,592	9,799	9,951	10,066	10,024
2022(R4)年度日最大	8,993	8,876	9,110	8,920	8,792	8,884	9,483	9,106	9,798	11,047	9,991	9,831
2023(R5)年度日最大	8,589	8,630	8,983	10,570	10,326	8,720	8,846	9,411	9,897	10,128	9,946	9,875
2024(R6)年度日最大	9,276	8,554	8,740	9,242	9,139	9,241	9,312	9,545	10,257	10,064	10,030	10,105
2025(R7)年度日最大	9,281	8,715	9,084	9,064	8,704	8,771	8,242	9,372	10,040	10,153	9,962	10,223

久米配水池 配水量；一日平均配水量（m³/日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020(R2)年度日平均	8,910	8,667	8,775	8,606	8,939	8,723	8,956	8,863	9,417	9,373	9,834	9,463
2021(R3)年度日平均	8,590	8,699	8,531	8,668	8,399	8,368	8,553	8,754	9,149	9,054	9,362	9,211
2022(R4)年度日平均	8,380	8,327	8,455	8,447	8,143	8,464	8,594	8,540	8,816	8,885	9,353	8,905
2023(R5)年度日平均	8,189	8,162	8,367	9,727	8,530	8,354	8,464	8,551	8,988	8,928	9,186	8,926
2024(R6)年度日平均	8,313	8,156	8,261	8,541	8,440	8,540	8,784	8,826	9,434	9,313	9,226	9,263
2025(R7)年度日平均	8,363	8,146	8,488	8,463	8,201	8,263	8,242	8,517	9,180	9,050	9,378	9,278

＝年間の最大月

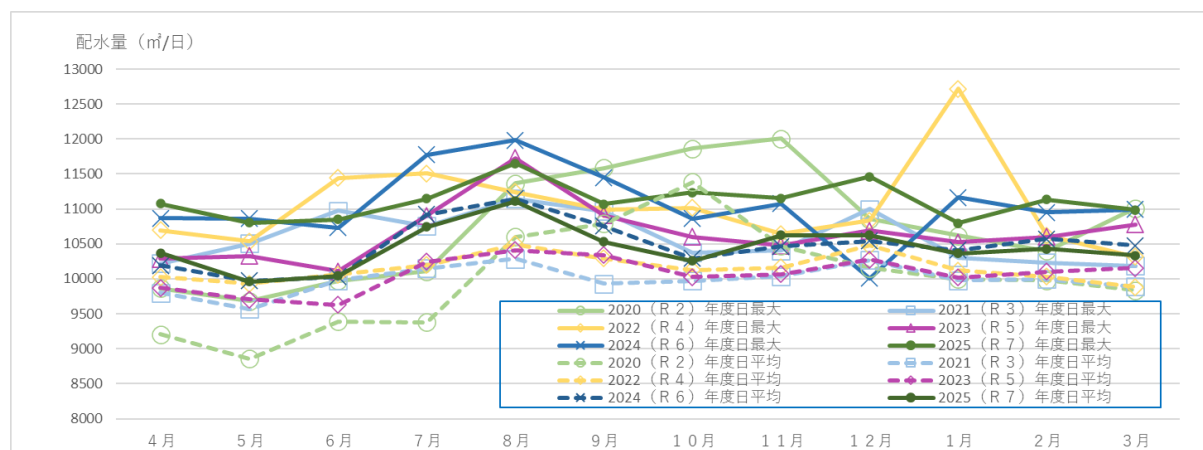
②中央配水区

中央配水区は、市内中央部に位置し、中央配水場から常滑、西浦地区の一部、空港及び中部臨空都市（空港島及び対岸部）へ自然流下により配水しています。また、配水区の高台には、飛香台ポンプ場、大曾ポンプ場により加圧配水しています。

中央配水区の夏季に11,000m³/日程度を示し、一日最大配水量（年間の最大月）は、12,000m³/日程度を示しています。夏季は主に夏休み期間（特にお盆中）に航空旅客等の増加による空港及び中部臨空都市の水需要の増加が要因となっています。

また、令和4年度1月の一日最大配水量の大幅な増加は、大寒波による宅内の給水管の凍結による漏水が多発したことが要因となっています。

図 2-3-4 中央配水池 配水量月変化（R 2. 4～R 8. 3）



中央配水池 配水量；一日最大配水量（m³/日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020(R2)年度日最大	9,864	9,681	9,970	10,109	11,366	11,588	11,864	12,007	10,853	10,617	10,400	11,009
2021(R3)年度日最大	10,224	10,508	10,976	10,754	11,145	10,968	10,377	10,408	10,996	10,302	10,231	10,185
2022(R4)年度日最大	10,696	10,536	11,441	11,509	11,244	10,991	11,016	10,643	10,833	12,720	10,620	10,315
2023(R5)年度日最大	10,287	10,329	10,111	10,902	11,728	10,911	10,603	10,477	10,689	10,522	10,601	10,777
2024(R6)年度日最大	10,865	10,862	10,731	11,777	11,984	11,450	10,863	11,076	10,007	11,165	10,951	10,992
2025(R7)年度日最大	11,077	10,805	10,849	11,145	11,653	11,070	11,236	11,151	11,461	10,794	11,135	10,988

中央配水池 配水量；一日平均配水量（m³/日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020(R2)年度日平均	9,210	8,857	9,390	9,379	10,600	10,793	11,385	10,473	10,156	9,996	9,980	9,838
2021(R3)年度日平均	9,799	9,566	9,980	10,152	10,284	9,931	9,973	10,035	10,269	9,977	9,996	9,888
2022(R4)年度日平均	10,023	9,928	10,060	10,200	10,496	10,291	10,125	10,161	10,475	10,119	10,029	9,886
2023(R5)年度日平均	9,871	9,708	9,628	10,242	10,409	10,338	10,026	10,065	10,272	10,021	10,102	10,158
2024(R6)年度日平均	10,189	9,975	10,031	10,920	11,145	10,756	10,290	10,462	10,539	10,413	10,569	10,476
2025(R7)年度日平均	10,369	9,961	10,046	10,742	11,113	10,530	10,256	10,625	10,624	10,361	10,426	10,333

＝年間の最大月

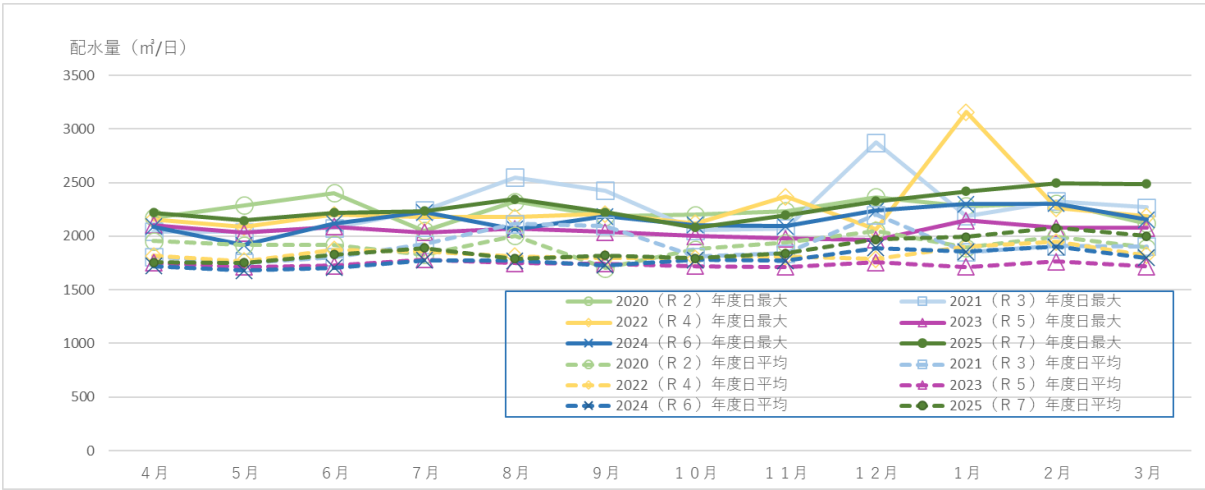
③熊野配水区

熊野配水区は、市内南部に位置し、熊野配水場から小鈴谷、西浦地区の一部へ自然流下により配水しています。配水区の高台には、熊野配水場、桧原配水場、大谷配水場から自然流下により配水しています。

熊野配水区の一日平均配水量は、2,000^m³/日程度を示し、一日最大配水量（年間の最大月）は、2,500^m³/日程度を示しています。季節変動が少なく、年間通してほぼ横ばいです。

また、令和4年度1月の一日最大配水量が大幅に増加したのは、大寒波による宅内の給水管の凍結による漏水が多発したことが要因となっています。

図 2-3-5 熊野配水池 配水量月変化（R 2. 4～R 8. 3）



熊野配水池 配水量；一日最大配水量（m3/日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020(R2)年度日最大	2,175	2,290	2,403	2,052	2,322	2,185	2,199	2,234	2,366	2,280	2,309	2,121
2021(R3)年度日最大	2,044	2,040	2,079	2,241	2,548	2,428	2,055	2,073	2,876	2,189	2,327	2,268
2022(R4)年度日最大	2,160	2,087	2,202	2,176	2,176	2,208	2,121	2,368	2,064	3,159	2,260	2,185
2023(R5)年度日最大	2,103	2,031	2,088	2,035	2,072	2,040	2,003	1,977	1,966	2,145	2,078	2,079
2024(R6)年度日最大	2,089	1,919	2,120	2,225	2,065	2,186	2,105	2,093	2,238	2,300	2,305	2,154
2025(R7)年度日最大	2,218	2,146	2,219	2,236	2,347	2,222	2,082	2,197	2,325	2,419	2,497	2,486

熊野配水池 配水量；一日平均配水量（m3/日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020(R2)年度日平均	1,956	1,917	1,922	1,828	2,004	1,703	1,878	1,942	2,053	1,893	1,997	1,895
2021(R3)年度日平均	1,809	1,753	1,805	1,925	2,115	2,097	1,811	1,842	2,202	1,851	1,910	1,907
2022(R4)年度日平均	1,819	1,769	1,874	1,860	1,812	1,795	1,793	1,811	1,787	1,901	1,946	1,820
2023(R5)年度日平均	1,752	1,716	1,725	1,782	1,749	1,745	1,720	1,716	1,757	1,715	1,765	1,718
2024(R6)年度日平均	1,721	1,679	1,705	1,774	1,771	1,731	1,778	1,771	1,892	1,855	1,903	1,800
2025(R7)年度日平均	1,757	1,751	1,829	1,890	1,791	1,820	1,795	1,842	1,972	1,995	2,077	2,000

＝年間の最大月

3) 用途別給水量

本市における給水用途は、メーター口径により判断し区分しています。口径13mmと共用水栓は市民が生活するために使用する「生活用」、口径20、25、100mmは商業施設や事業所が使用する「営業用」、口径40、50、75mmは工場等が使用する「工場用」と区分しています。また、本市では、中部国際空港や空港島及び対岸部に進出した企業による水需要が多く、その動向が水道事業に大きな影響を与えるため、当該区域に所在する事業所の給水は、口径に関係なく「空港用」として区分しています。

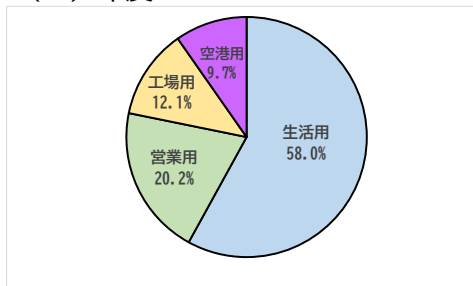
過去4年間に於いて生活用水量の割合は、近年、新築住宅に口径20mmのメーターを設置する傾向があることから、51.8%に減少しています。工場用水量の割合は、変化が少なく12%程度を示しています。

一方で、営業用水量の割合は20%でほぼ横ばいとなっておりますが、前述のように新築住宅に口径20mmのメーターを設置する傾向から生活用水量が混在していることが考えられます。

また、空港用水量の割合は、コロナ禍で一時7.8%まで落ち込みましたが、12.8%まで伸びており、水量も90万m³以上となり、少しずつ回復傾向を示しています。

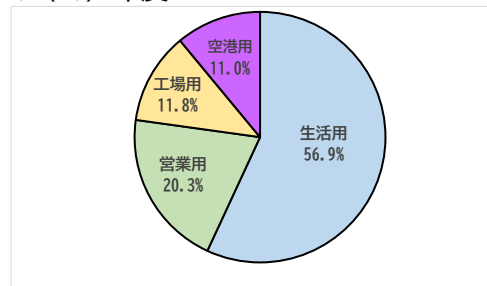
図 2-3-6 用途別給水量

2022 (R4) 年度



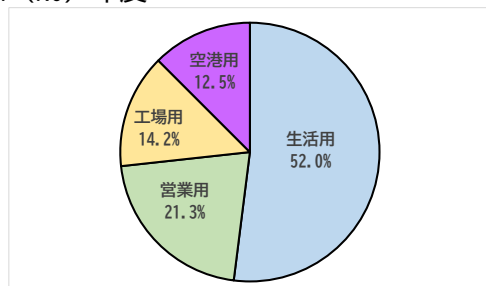
用途	水量 (m ³)	割合
生活用	4,062,690	58.0%
営業用	1,413,067	20.2%
工場用	845,651	12.1%
空港用	678,522	9.7%

2023 (R5) 年度



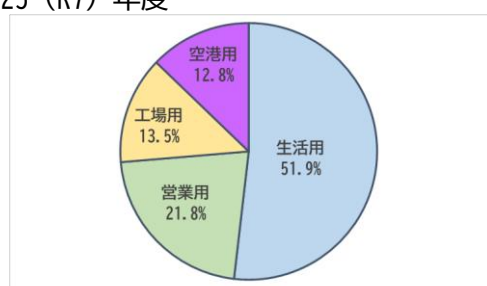
用途	水量 (m ³)	割合
生活用	3,991,818	56.9%
営業用	1,424,659	20.3%
工場用	831,983	11.8%
空港用	772,121	11.0%

2024 (R6) 年度



用途	水量 (m ³)	割合
生活用	3,762,769	52.0%
営業用	1,539,168	21.3%
工場用	1,031,105	14.2%
空港用	903,899	12.5%

2025 (R7) 年度



用途	水量 (m ³)	割合
生活用	3,713,509	51.9%
営業用	1,563,190	21.8%
工場用	969,596	13.5%
空港用	917,083	12.8%

4 施設の概要

本市では、自己水源はなく、愛知県水道用水供給事業（愛知県企業庁）より、平成10年4月から長良川を水源とする知多浄水場から浄水の供給を受けて、水道配水運用しています。浄水の受水点となる重要施設としては、久米配水場、中央配水場及び熊野配水場を配置し、市内へ自然流下による配水を実施しています。

また、御林配水場、大谷配水場及び桧原配水場には、それぞれ御林ポンプ場、大谷ポンプ場及び桧原ポンプ場より加圧送水し、各配水池から周辺地区に自然流下による配水を実施しています。一部高台の住宅地区には、加圧配水施設（青海山・多屋・飛香台・大曾ポンプ場）からの直接加圧配水を実施しています。

※前天神ポンプ場は令和7年4月自然流下に切り替え、ポンプ稼働を停止しました。

表 2-4-1 水道施設一覧

配水場

施設概要						配水池			
施設名称	所在地	建築年	地盤高	一日最大給水量	給水区域	形式	容量	HWL	LWL
久米配水場 (県水受水点)	常滑市久米 字砂刈地内	平成 21 年	65.00m	10,200m ³ /日	市北部	PC	5,000m ³	70.00m	65.00m
中央配水場 (県水受水点)	常滑市金山 字金色地内	平成 16 年	60.00m	18,400m ³ /日	市中央部 (セントレア含む)	PC	7,500m ³	70.00m	60.00m
熊野配水場 (県水受水点)	常滑市西阿野 字鷹ヶ巣地内	昭和 50 年	52.50m	8,000m ³ /日	市南部	PC	5,000m ³	56.00m	51.00m
		昭和 44 年	51.00m			PC	1,000m ³	56.00m	51.00m
御林配水場	常滑市久米 字御林地内	昭和 60 年	75.00m	1,000m ³ /日	久米工業団地	PC	500m ³	85.00m	75.00m
大谷配水場	常滑市大谷 字猿喰地内	平成 2 年	47.00m	800m ³ /日	大谷工業団地 周辺	PC (高架式) (脚部 RC 構造)	500m ³	63.00m	59.00m
桧原配水場	常滑市桧原 字三郎谷地内	平成 10 年	78.15m	302m ³ /日	桧原地区の 一部	PC (高架)	300m ³	87.34m	82.34m

ポンプ場

施設概要						ポンプ場					
						ポンプ設備					受水槽
施設名称	所在地	建築年	地盤高	一日最大給水量	給水区域	形式	台数	口径	揚程	揚水量	形式
御林ポンプ場	常滑市久米 字御林地内	昭和 60 年	39.40m	1,000m ³ /日	御林配水場	インライン ポンプ	2 台	φ100mm	35m	1.04m ³ /min	
大谷ポンプ場	常滑市大谷 字坂森知内	平成 2 年	17.00m	800m ³ /日	大谷配水場	水中多段 ポンプ	2 台	φ65mm	35m	0.70m ³ /min	バレル タンク (1.2m ³)
桧原ポンプ場	常滑市桧原 字三郎谷地内	平成 10 年	33.78m	302m ³ /日	桧原配水場	片吸込多段 渦巻ポンプ	2 台	φ50mm	70m	0.23m ³ /min	47.15m ³
青海山ポンプ場	常滑市青海町 4 丁目地内	平成 18 年	24.00m	321m ³ /日	青海山 北汐見坂 高区	バレルド モータポンプ	2 台	φ100mm	25m	1.56m ³ /min	
※前天神ポンプ場	常滑市矢田 字谷海道地内	平成 9 年	31.18m	11m ³ /日	前天神 矢田上之山地区	多段渦巻 ポンプ	3 台	φ40mm	32m	0.70m ³ /min	
多屋ポンプ場	常滑市多屋 字茨廻間地内	平成 5 年	20.50m	152m ³ /日	多屋団地 セラモール周辺	水中多段渦巻 ポンプ	2 台	φ65mm	60m	0.65m ³ /min	180m ³
飛香台ポンプ場	常滑市 字蛇廻間地内	平成 20 年	31.00m	2,374m ³ /日	飛香台高区	バレルド モータポンプ	2 台	φ65mm	20m	0.55m ³ /min	
大曾ポンプ場	常滑市 字陸星地内	昭和 53 年	34.50m	609m ³ /日	大曾町・ 高坂地区	多段渦巻 ポンプ	3 台	φ100mm	57m	0.63m ³ /min	225m ³
						小型ユニット ポンプ	2 台	φ40mm	42m	0.28m ³ /min	

図2-4-2 水道施設位置図

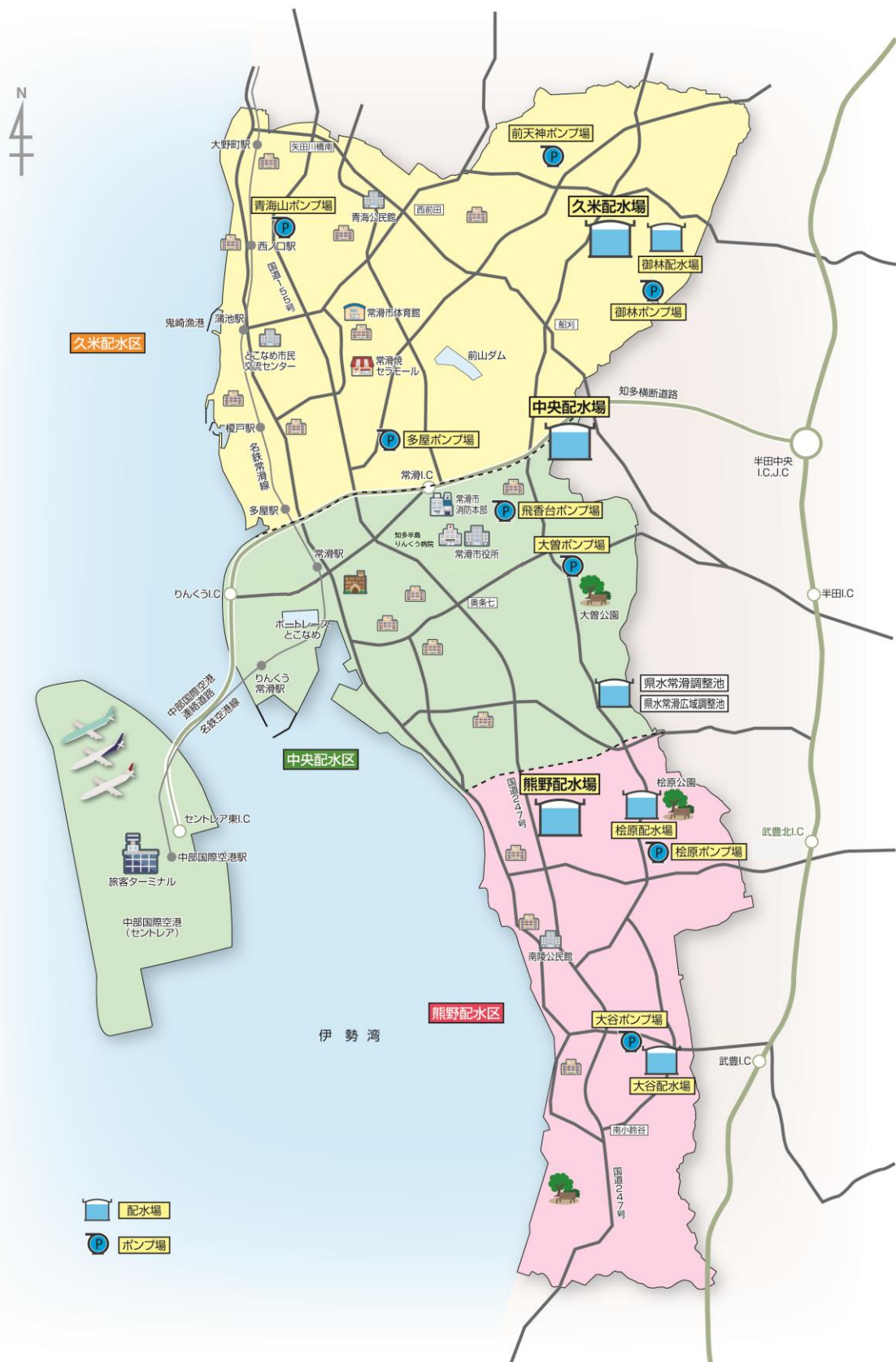


図2-4-3 水道施設高低図(久米配水区)

□久米配水区(1日計画配水量12,020m³/日)

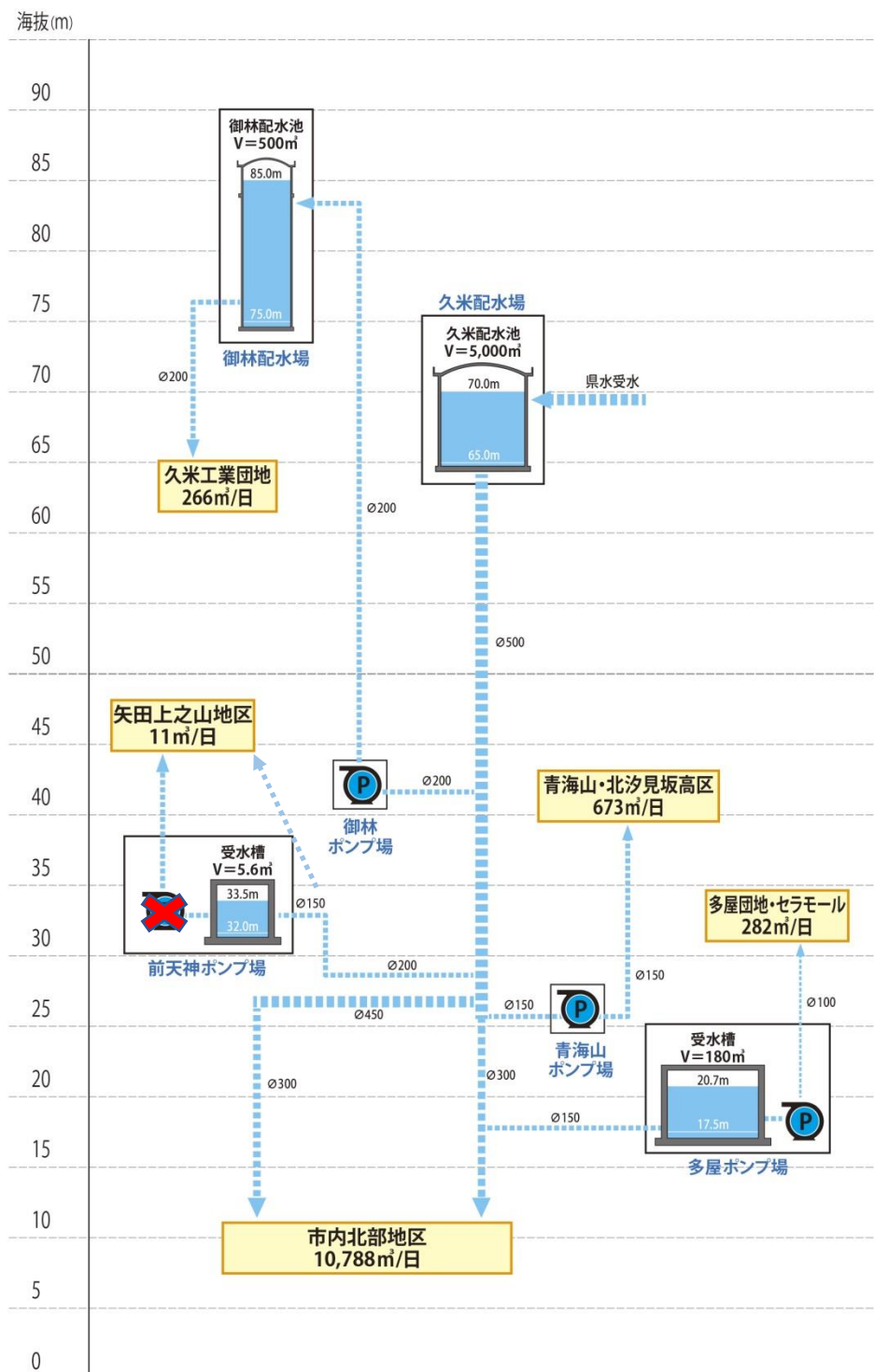


図2-4-4 水道施設高低図(中央配水区)

□中央配水区(1日計画配水量16,430m³/日)

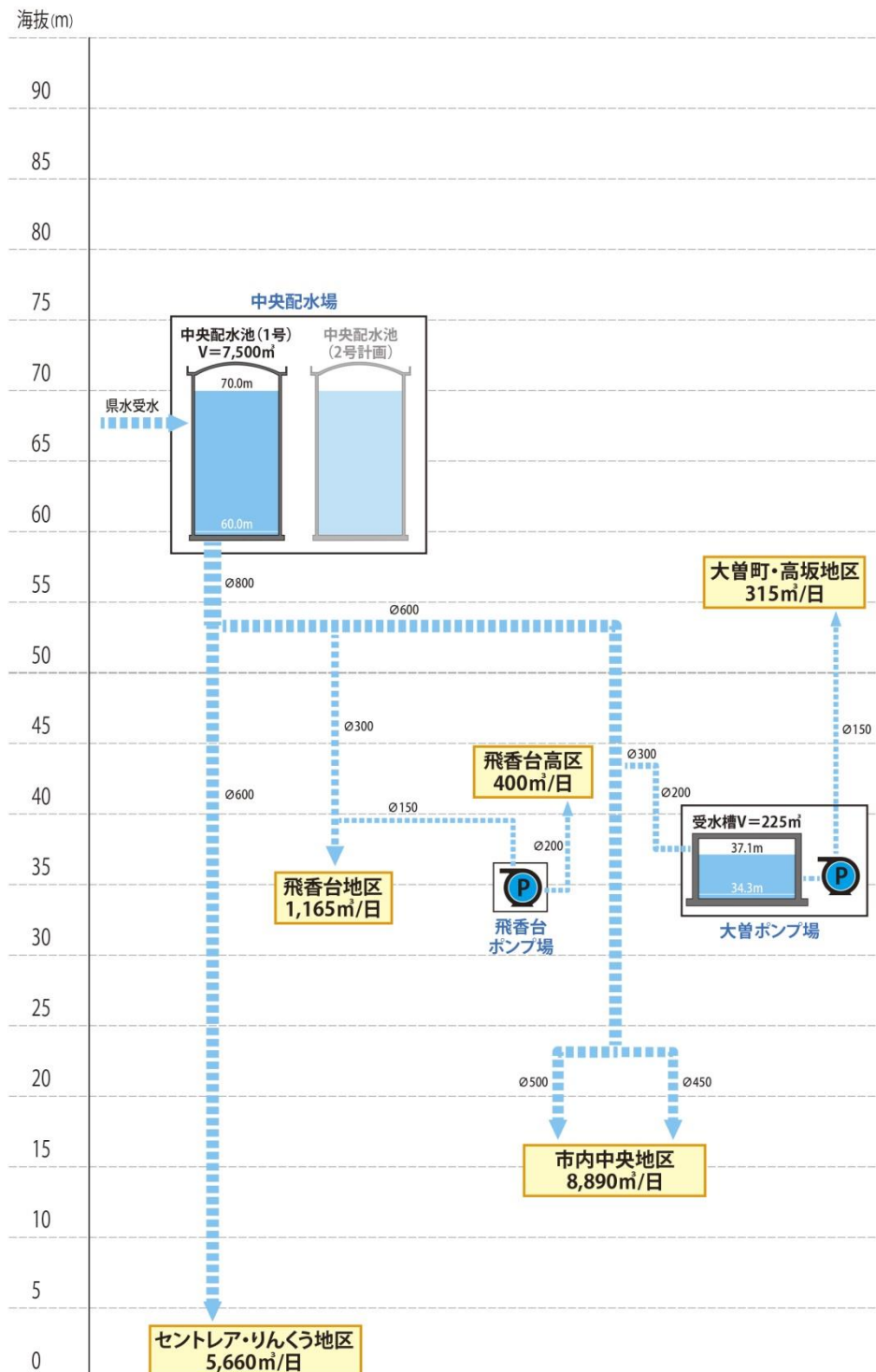
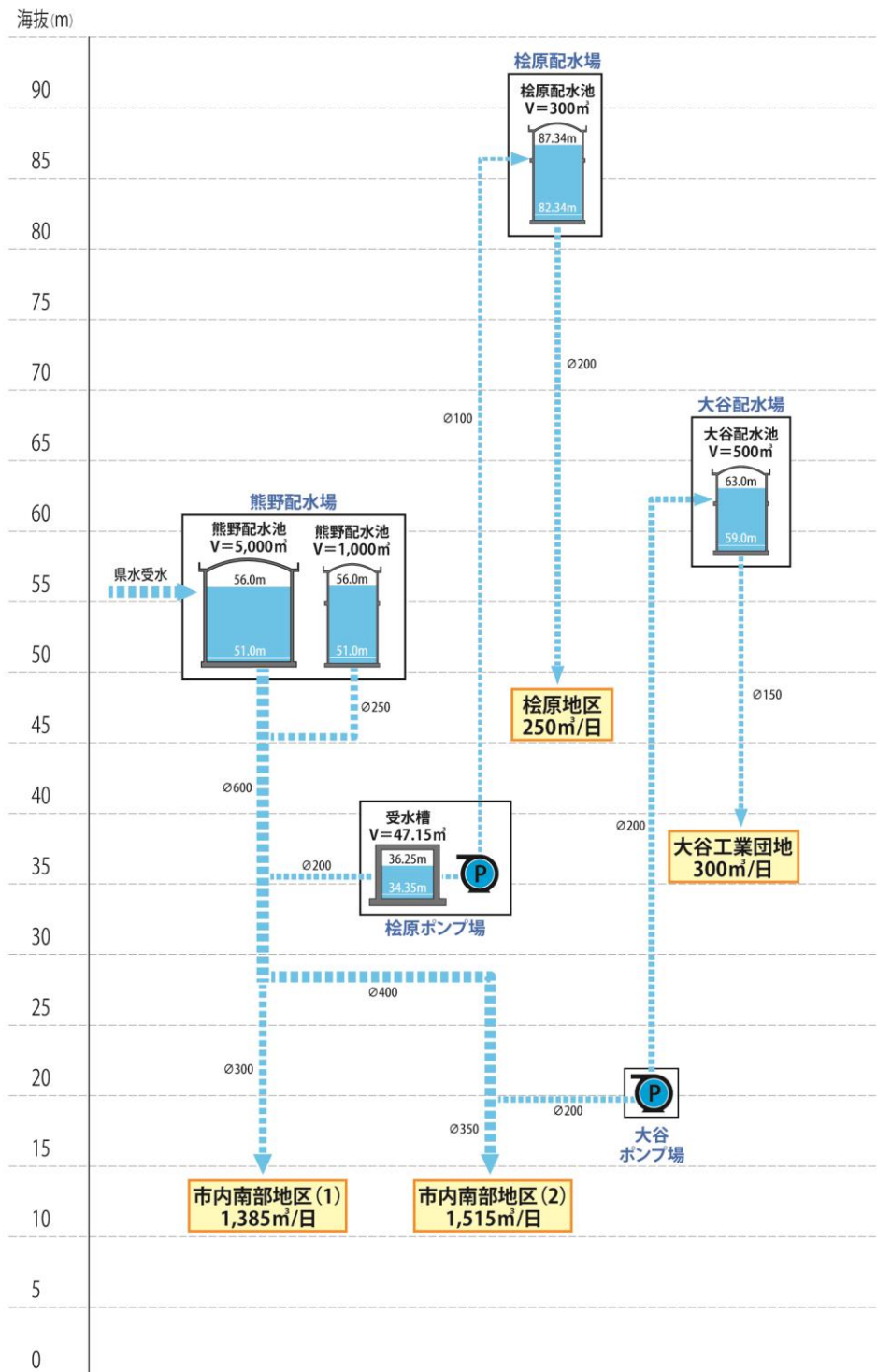


図2-4-5 水道施設高低図(熊野配水区)

□熊野配水区(1日計画配水量3,450m³/日)



5 管路の状況

(1) 管路の概要

本市の配水管路の延長は、令和7年度末において口径250mm以上の配水本管70km（12.6%）、口径200mm以下の配水支管488km（87.4%）、合計558kmとなっています。

配水本管（口径250mm以上）については、平成8年から耐震性能のあるダクタイル鋳鉄管（DCIP耐震継手）とステンレス鋼管（SUS）にて更新を進めてきたことにより、耐震管の延長34km（48.1%）となっています。また、非耐震管であるダクタイル鋳鉄管A形・K形継手（DCIP一般継手）の延長は36km（51.9%）となっています。

配水支管（口径200mm以下）については、硬質塩化ビニル管（VP）を口径100mm以下において主に採用しており、その延長が274km（56.1%）となっています。また、ダクタイル鋳鉄管A形・K形継手（DCIP一般継手）の延長は、平成15年度以前の口径100～200mmに採用されていたため103km（21.2%）となっています。

表 2-5-1 口径別配水管延長

令和7年度末現在（単位：m）

口径	累計総延長	耐震管			非耐震管				
		DCIP (耐震継手)	SUS	HPPE	DCIP (一般継手)	GP	ACP	VP	PP
配水本管	800mm	475.50	475.50						
	600mm	14,522.34	7,334.29		7,138.20	49.85			
	500mm	9,338.60	5,575.24	33.62	3,722.65	7.09			
	450mm	7,927.95	133.86		7,636.07	158.02			
	400mm	4,150.30	1,556.83		2,589.47	4.00			
	350mm	3,863.82	1,003.46	2,727.33	128.86	4.17			
	300mm	22,027.99	12,235.48	37.10	9,439.69	315.72			
	250mm	8,160.91	2,769.07	28.81	5,230.52	132.51			
	小計 (割合)	70,467.41 (12.63%)	31,083.73 (5.57%)	2,826.86 (0.51%)	35,885.46 (6.43%)	671.36 (0.12%)	0.00	0.00	0.00
配水支管	200mm	28,683.20	14,666.89	94.61	13,710.25	178.14	33.31		
	150mm	61,667.91	31,181.20	28.81	248.48	29,754.96	443.21	5.71	5.54
	125mm	31.22				2.30	28.92		
	100mm	165,138.90	19,354.40	27.80	14,956.76	54,558.61	1,015.29	39.12	75,186.92
	75mm	14,532.71	529.57	1.00	60.54	5,074.55	279.86	5.81	8,581.38
	50mm以下	217,702.55		47.33	14,919.88	284.38	1,491.69		189,802.00
	小計 (割合)	487,756.49 (87.37%)	65,732.06 (11.77%)	199.55 (0.03%)	30,185.66 (5.41%)	103,385.05 (18.52%)	3,437.11 (0.62%)	83.95 (0.02%)	273,575.84 (49.00%)
管路総延長		558,223.90 (100.00%)	96,815.79 (17.34%)	3,026.41 (0.54%)	30,185.66 (5.41%)	139,270.51 (24.95%)	4,108.47 (0.74%)	83.95 (0.02%)	274,575.84 (49.00%)

※（ ）内は管路総延長に対する割合（％）を示す。四捨五入のパーセンテージ（％）の合計が合わない場合がある。

※用語説明

耐震管 DCIP（耐震継手）…ダクタイル鋳鉄管（耐震継手）
 SUS…ステンレス鋼管 HPPE…水道配水用ポリエチレン管（融着継手）

非耐震管 DCIP（一般継手）…ダクタイル鋳鉄管（一般継手）
 GP…鋼管 ACP…石綿セメント管
 VP…硬質塩化ビニル管（TS継手…接着、RR継手…ゴム輪）
 PP…水道用ポリエチレン管（冷間継手）

(2) 基幹管路

本市の基幹管路は、配水本管・口径250mm以上（給水分岐しない管路）の管路とします。

また、配水支管は、口径200mm以下の管路とします。

なお、今後は、決算・統計等の延長管理の都合により、基幹管路と配水本管は同じとします。

図2-5-2 水道基幹管路図



表2-5-3 基幹管路の延長・割合

令和7年度末現在

配管種類	耐震管路延長（割合）		非耐震管路延長（割合）		合計	
	令和3年度末	令和7年度末	令和3年度末	令和7年度末	令和3年度末	令和7年度末
基幹管路 （配水本管）	31,729m (46.4%)	33,910m (48.1%)	36,594m (53.6%)	36,557m (51.9%)	68,323m (100.0%)	70,467m (100.0%)

（3）老朽管路

配水管路の布設年度別延長の状況としては、昭和30年代から昭和50年代後半に布設された法定耐用年数40年を超える老朽管路が令和3年度末154km、令和7年度末では183km存在します。

配水本管の老朽管路は令和3年度末28km、令和7年度末27kmあり、この中には、創設期に布設された管路や、愛知県から移譲を受けた旧久米浄水場からの管路が含まれています。

配水支管の老朽管路は令和3年度の126kmから令和7年度末156kmと増加しており、その中に昭和40年代以前の硬質塩化ビニル管が60km（令和3年度65kmから減少）含まれています。

今後も、多くの管路が更新時期を迎えることから、計画的に更新事業を進める必要があります。

図 2-5-4 配水管路布設年度別延長表（配水本管と配水支管）

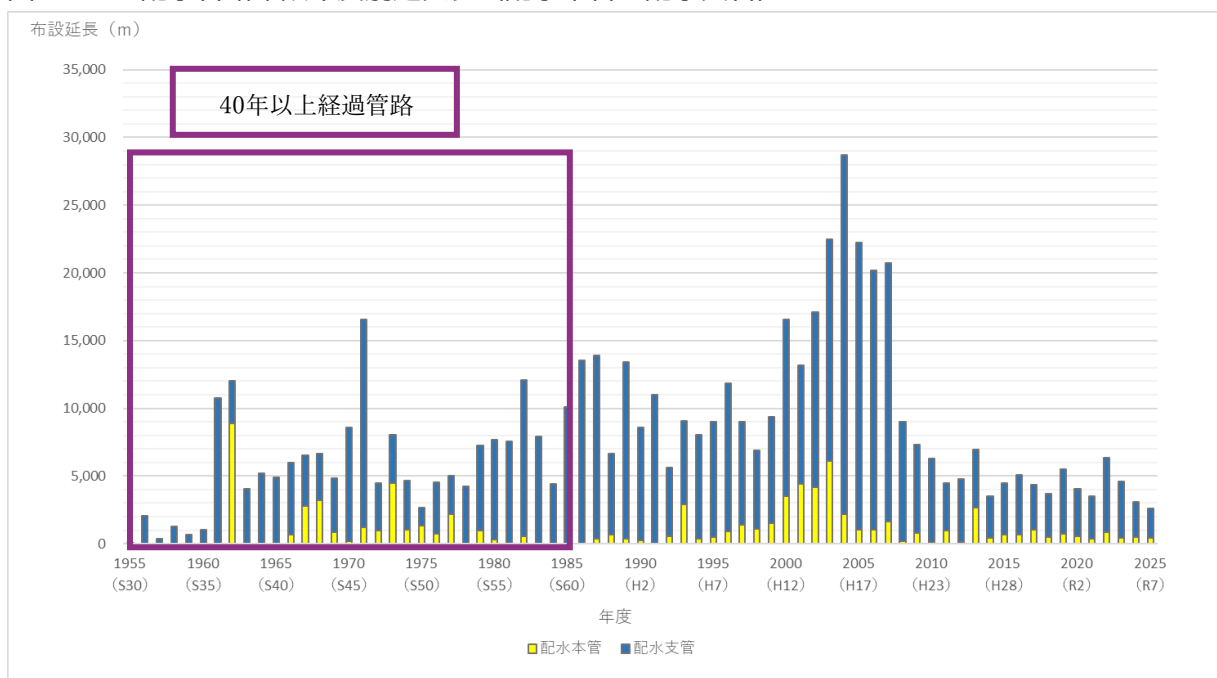
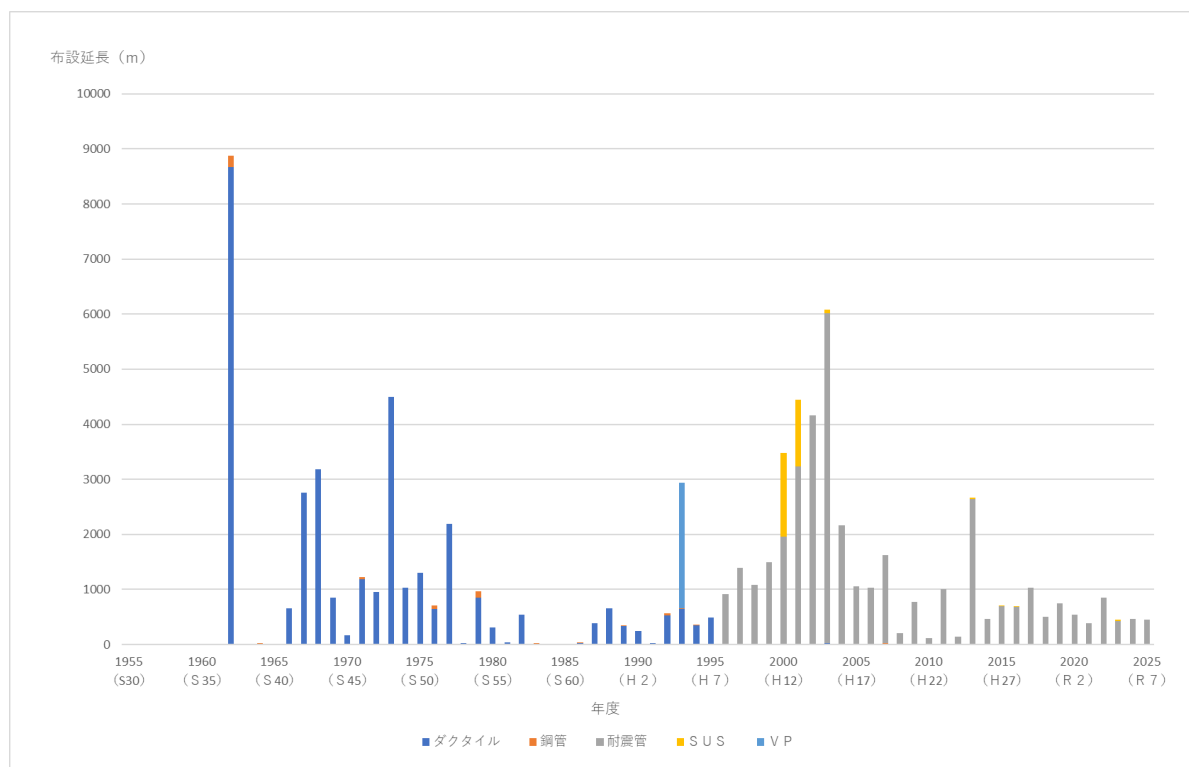


図 2-5-5 配水管路布設年度別延長表（管種別）

配水本管



配水支管

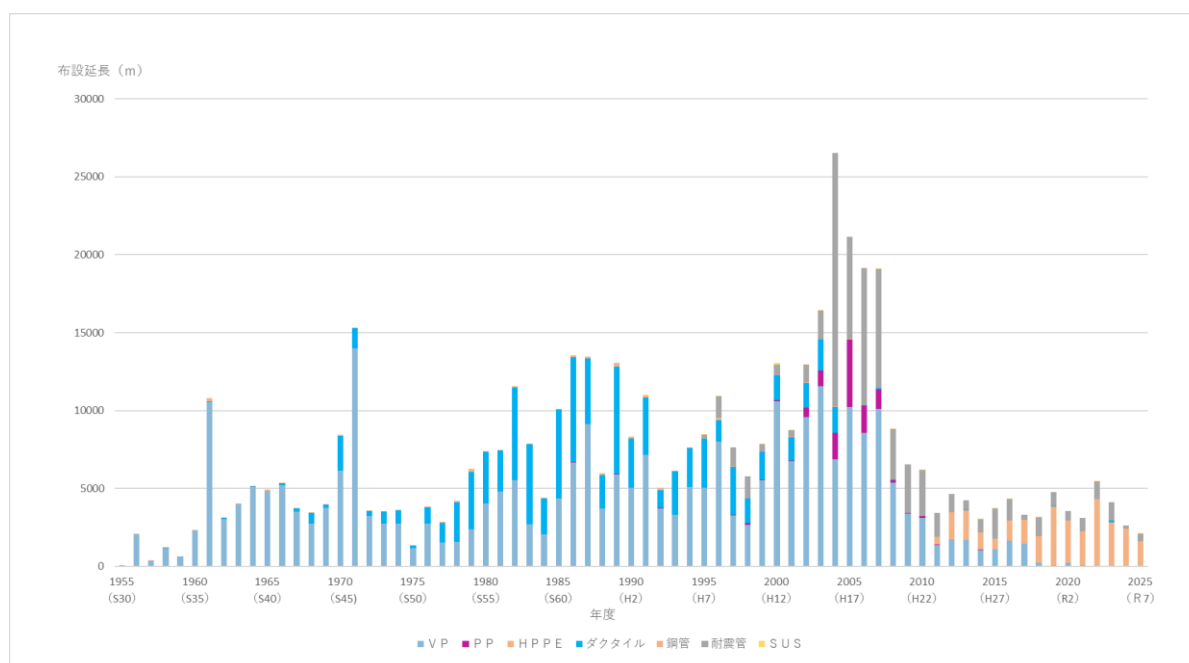


表2-5-6 法定耐用年数超過管路率

令和7年度末現在

	管路延長 (m)	健全管路 (m)	法定耐用年数 超過管路 (m)	法定耐用年数 超過管路率
配水本管	70,467	43,063	27,404	38.9%
配水支管	487,756	331,692	156,064	32.0%
合 計	558,223	374,755	183,468	32.9%

(4) 耐震管率

配水本管の耐震管率は、平成10年代から市内配水の主要な基幹管路を耐震管へと更新を進めているため、令和3年度末46.4%でしたが令和7年度末48.1%と増加しています。

配水支管の耐震管率は、耐震管の採用により更新を進めておりますが、管路の延長が膨大であるため令和3年度末16.9%が令和7年度末19.7%となっています。

なお、本市における管路全体の耐震管率は、令和3年度末20.6%でしたが、令和7年度末23.3%となっています。

表 2-5-7 耐震管路の延長・割合

配水本管	令和3年度	令和7年度	令和12年度
耐震管路延長 (割合)	31,729.49m (46.4%)	33,910.59m (48.1%)	39,272m (56.3%)
非耐震管路延長 (割合)	36,593.95m (53.6%)	36,556.82m (51.9%)	30,443m (43.7%)
管路延長合計 (割合)	68,323.44m (100.0%)	70,467.41m (100.0%)	69,715m (100.0%)

配水支管	令和3年度	令和7年度	令和12年度
耐震管路延長 (割合)	82,090.39m (16.9%)	96,117.27m (19.7%)	-
非耐震管路延長 (割合)	403,355.73m (83.1%)	391,639.22m (80.3%)	-
管路延長合計 (割合)	485,446.12m (100%)	487,756.49m (100%)	-